

読む得! 在宅医療と介護の連携

～身近な事例から～ 第10回

－高齢者の薬の飲み忘れ－

家族とかかりつけ医師の相談により、薬の飲み忘れを防ぐことができたケース

80代後半の一人暮らしの女性Aさんは、1年前から薬の飲み忘れが目立ってきたため、かかりつけ医は薬の種類を整理し、複数の薬を1回分ずつひとつの袋にまとめる「一包化」に変更しました。しばらくするとAさんは通院をしなくなってしまい、そのことに気づいた娘はかかりつけ医に相談に行きました。

本人は、食事や入浴は自分でできるものの、内服を忘れてしまうことが多かったため、かかりつけ医の勧めで介護保険を申請しました。訪問介護やデイサービスなどの利用により、服薬の確認や見守りが行われ、適切な服薬につなげることができました。

☆ポイント☆

- ・ 高齢者がきちんと服薬できているか、家族の方は時々チェックしましょう。
- ・ 薬の飲み忘れは認知症の進行の可能性もあります。心配がある場合は、かかりつけ医や薬局、高齢者なんでも相談室に相談しましょう。